

統計力学I 演習履修上の注意

- 毎回出席をとる。2/3 以上出席しないと、履修規定上単位は出せない。
- 問題を黒板で解答し、説明をしてもらう。原則として演習の前々週の講義（金曜日）終了時に問題を配布するので、全員それらすべてを解いてくること。解答の丸写しは論外だが、複数で協力して問題を解くことは奨励する。理解度の高い者を中心に教え合って全体のレベルアップを目指してほしい。
- 演習開始時に解答者をランダムに当てる。当たったのに解いてきていなかった者はそのたびごとにマイナス1ポイントを付ける。マイナス4ポイントに達した場合自動的に不合格とする。大問1題解くとプラス2ポイントを付ける。ただし、講義の復習を動機づけるため、講義でやった計算と同内容の復習問題(*印)を出すことがあるがこれは1ポイントとする。最終的に2ポイントに達しなかった者は自動的に不合格とするが、通常、少なくとも4ポイントには達してほしい。(ランダムに当てるので一度当たっていても再度当たる可能性はあり、そのときやって来ていなければマイナスポイントがつく事に注意。)
- 高度な問題や数名当ててもやってきている者がいない問題は、希望者を募り解答してもらう。この場合3ポイントとする。
- 原則として毎回の分はその週に終わらせるが、どうしても残ってしまった問題は適宜レポートとして提出してもらうことがある。
- 説明は、最低限、(a) 問題の設定の説明、(b) 立式・式変形の根拠・論理の説明、(c) 結果と（純粹に数学の問題でなければ）その物理的意味の説明、を含むこと。
- 黒板での解答や説明が理解できない場合は、わかるまで発表者に質問すること。